

九州かわとも

■「川の応援団」

前 九州地方整備局 河川部長 浦山洋一氏

■「川の先駆者」20周年特集

NPO 法人大淀川流域ネットワーク

■特集「みらい会議」／「水辺で乾杯」

■「流域じまん」

堀川再生の会・五平太（福岡・遠賀堀川）／六角川、川の学校（佐賀・六角川）
黒崎干陸地を守る会（長崎・本明川）／球磨川・人吉地区かわまちづくり協議会（熊本・球磨川）
舞鶴高校力ヌ一部（大分・大分川）／小丸川鉄道橋（宮崎・小丸川）／小鹿酒造（鹿児島・肝属川）

■「流域治水」

表紙の写真：第6回九州川の風景フォトコンテスト
最優秀賞：季節を感じる写真（春）／大分県大分川

第8号
TAKE
FREE



九州の川遊び情報募集中！

九州の川で色々な活動をしている皆様！「九州かわとも」編集部まで、ぜひ情報をお寄せください。お待ちしております。



川あそび情報誌「九州かわとも」事務局
（一社）北部九州河川利用協会内

TEL：0942-34-6733 FAX：0942-32-6977
MAIL：kawatomo.mk@gmail.com

第6回九州川の風景コンテスト・受賞作



優秀賞：季節を感じる写真（春）
／二反田川（長崎）



優秀賞：季節を感じる写真（春）
／戸根川（長崎）



優秀賞：季節を感じる写真（冬）
／田の春川（熊本）



優秀賞：川の楽しさ・魅力を感じる写真
／佐々川（長崎）



優秀賞：川の楽しさ・魅力を感じる写真
／多良良川（長崎）



優秀賞：季節を感じる写真（春）／草場川（福岡）



優秀賞：スマホ賞・国土交通省管理河川賞
／球磨川（熊本）



優秀賞：川の楽しさ・魅力を感じる写真
／柳川（福岡）



優秀賞：カッコイイ！河川工事の写真
／城原川（佐賀）



優秀賞：季節を感じる写真（冬）／野鳥川（福岡）



優秀賞：季節を感じる写真（春）／嘉瀬川（佐賀）



優秀賞：季節を感じる写真（春）／遠賀川（福岡）



優秀賞：学生賞／大野川（大分）



優秀賞：季節を感じる写真（冬）／山国川（大分）



『第2回九州河川協力団体みらい会議』開催しました！

九州の河川協力団体とパートナーである九州地方整備局が、これまで同様しっかりと連携し、河川を軸とした地域の活性化に向けて取り組んでいくために「これからの10年」を見据え、20代～40代と年代を限定した若手同士による講習会である「第2回九州河川協力団体みらい会議」が開催されました。

会議は2日間に渡って開催。

1日目は「座学」として、冒頭に甲斐河川情報管理官より「住民団体の皆さまとお付き合ひして30年。共に連携しながら育ててもらってきた。みらい会議を機に、新たな若手の皆さんの交流、信頼関係構築に繋がって欲しい」とアドバイスを頂くと、九州地方整備局河川部の原田河川環境課長による「九州地域連携の歴史と河川協力団体の概要」、熊本河川国道事務所の上流域治水課長による「流域治水について」の講話や、河川協力団体や河川協力団体以外の住民団体さんによる、九州地方整備局として連携して行った活動事例の報告が行われました。

講話の後には、「水防災チームリーダー」の池辺さんにコーディネート

1日目：「座学・ワークショップ」の様子



ネーターを務めて頂き「みんなの「掛け算」で愛される川づくり」夢プランを作ろう」と題したワークショップを行いました。会議開催時は「はじめまして」の人たち同士で緊張した面持ちであつた会場も、お互い意見を交わすことで、少しずつ笑顔があふれ、皆さん仲良く賑やかになっていく空気感がとても心地よかったです。

2日目：「渡河訓練」の様子



2日目は「渡河訓練」を「白川ワークランド」で開催しました。訓練では、普段から「体験活動」にたけている河川協力団体の皆さんが講師役をつとめ、机上では分からない、実際に川の中に入つての危険個所の確認や、楽しさなどを学びました。一緒に学び、汗をかけた出席者の皆さんで撮影した集合写真は、みんなとっても良い笑顔。この笑顔を見ると、九州の「河川」の未来は明るいと思いますね。

記事作成：事務局／中島重人

九州各地で、

「川と街をつなげる」
「川と人をつなげる」

取り組みが始まっています

優秀賞：川の楽しさ・魅力を感じる写真
高良川（福岡）

■ 特集／みらい会議	2
■ 川の応援団	3
・前 九州地方整備局 河川部長／浦山洋一氏	
■ 水辺で乾杯	7
■ 川の先駆者たち～20周年特集／NPO法人大淀川流域ネットワーク	9
■ 流域じまん	
・堀川再生の会・五平太（福岡・遠賀堀川）／・六角川、川の学校（佐賀・六角川）	11
・黒崎干陸地を守る会（長崎・本明川）／・球磨川・人吉地区かわまちづくり協議会（熊本・球磨川）	13
・舞鶴高校カヌー部（大分・大分川）／・小丸川鉄道橋（宮崎・小丸川）	15
・小鹿酒造（鹿児島・肝属川）	17
■ トピック	
・ごぼまん（大分・大野川）／・ヤベガワモチ（佐賀・嘉瀬川）	18
・川のワークショップ in 長崎の協議会事務局／・神野スマイル協働隊（鹿児島・肝属川）	19
■ 流域治水	21
■ 活動団体紹介	
・NPO法人白川流域リバーネットワーク（熊本・白川）	23
・バイオマスワークあったらし会（鹿児島・宮人川）	24
■ 編集後記	25
■ 協賛企業一覧	26

川の応援団



前 九州地方整備局 河川部長／浦山洋一氏

浦山部長と河川のこれまでの関わりについてお聞かせください。

私の実家は白川（熊本県）の河畔沿いにありました。小島町というところで、河口の有明海にも近い場所です。小学生の頃はいつも川で遊んでいました。白川は大きい川ですが、小島町付近は感潮区間ですので、潮が引くと何とか対岸に渡ることもできます。ただし、足が着かない深いところや流れが速いところがあるので難易度は高く、高学年になった頃に渡れたときは、達成感がありました。ちなみに、中学生の頃は、有明海で満潮に合わせて沖から海岸まで泳いで帰ってきたこともあります。今思うと、危ないことをしていました。

小島町付近の白川の面白さは、低水護岸の基礎に詰杭（つめぐい）が設置されていることです。木杭の間に石が詰めてあるので、隙間に手長エビなどの生き物が沢山います。ハゼやエビを釣り、河原で焚き火をして焼いて食べていました。夏はこのように川で泳いだり魚を捕った

りし、冬は高水敷で凧揚げや焚き火をし、春や秋は草野球やキャンプをして遊んでいました。川で遊びながら育ちましたね。山には、クワガタを捕りにいっていたので、早朝は山に行き、昼からは川や海で遊んでいました。

社会人になり実家を出るまでは、白川が一番大きい川だと思っていましたが、建設省に入省し川内川工事事務所に配属され川内川を見たとき、その大きさに驚いたことを記憶しています。井の中の蛙でした。

川内川工事事務所に配属され、最初の一年間は、道路行政に懂れていましたし、熊本に帰りたいとも思っていました。しかし、二年目以降は、川の仕事が楽しくて、川の仕事を続けようと強く思うようになりました。川内市での生活もとても楽しかったですね。最初の赴任地である川内川工事事務所での経験が、その後の人生に大きな影響を与えました。故郷の熊本を希望せず、スキルアップを目指して、当時、最も忙しい事務所と言われていた武雄工事事務所

務所（当時は武雄学校と呼ばれていた）を次の勤務地として希望しました。

地域と連携したさまざまな川づくりに取り組んでこられた中で、印象深いことを教えてください。

では、約30年前、約20年前、約10年前の順で振り返ってみたいと思います。30年前、私はまだ20代後半の若者で、武雄工事事務所に勤務していました。平成2年7月洪水が発生し、六角川水系牛津川の上流部の改修を新たに進めることになりました。



堤防の線形を湾曲させて保全した棕の樹林帯（牛津川）

多久市に棕ノ瀬橋という橋

があります。大きな棕の木が樹林帯が河畔に存在する場所です。当時はまだ環境への意識がそれほど高い時代ではないので、通常であれば、この樹林帯を伐採して堤防を築造する方法をとるようになりました。しかし、上司の課長から、「土地の取得面積は増えるが、地元の希望であれば、川幅を大きく広げて、樹林帯を川の中に残す方法も可能ではないか」との提案を受け、私が具体的な設計を担当することになりました。堤防の線形を大きく住宅地側に湾曲させた計画を立案し、地元と合意形成を図りました。地域の方々に大変喜んでいただき、スムーズに合意形成ができたのを記憶しています。

このときに、従来の考え方にとらわれない発想で河川整備を実施しても良いのだというところ、そして、地元の意向を踏まえた柔軟な計画づくりの重要性を学びました。

20年前は、熊本工事事務所の白川出張所勤務のときの

話です。着任したとき、九州地方整備局（以下、整備局という）河川部の旗振りによって、「川の発見・再発見プロジェクト」が始まることになりました。白川では、リバースクールを始めることにしました。良きライバルは、先駆的に住民連携が行われていた緑川下流出張所です。カヌーやライフジャケットを揃え、お互いに競争意識を持ちながら、時には連携して、住民団体の方や子どもたちと一緒に川で遊び川に学ぶ、川の利用促進というソフト施策に取り組ましました。

白川の活動拠点となる「白川わくわくランド」の近くでは、丁度、護岸工事が予定されていたので、安全に楽しく遊べる河岸への改良と良好な景観の創出を目指し、現場の視点で護岸の設計を見直ししました。当時九州で積極的に導入しようとしていた低水水制を設置することにしました。水流をコントロールして、河岸の保護と併せて、カヌーが接岸しやすいよう工夫しました。深い淵を残して飛び込み

場も設置しました。タラップを

つけて水の中から上がりやすいようにしています。白川は上流のかんがい用水の取水により水位が変動します。そのため、どんな時でも水面に近づけるよう水際を階段上にするなど工夫しています。市街地の川だからこそ、自然石を使うなど景観上も工夫しました。



水辺の利用にも配慮した低水水制を用いた護岸（白川）

このときに、水辺の利用というソフト施策の重要性や現場の特性を生かした質の高い付加価値を生むモノづくりの重要性を学びました。

最後は10年前です。宮崎河川国道事務所の副所長の頃の話になります。宮崎市内に



保全した干潟環境と整備されたウォーターフロント（津屋原沼）

津屋原沼（大淀川支川八重川）という場所があります。地元ではタンポロと呼ばれていました。津波対策として、海水の逆流を防ぐ必要があり、私が赴任した時には、沼と八重川の境のところに水門を築造することが決まっていました。しかし、この付近はアカメという魚類の産卵場や干潟が存在することや、沼の中に放置船が散在するなど、景観や住環境に課題がある場所でした。また、水門を築造した場合に、その管理が将来の課題になることも想定されました。

こととし、アカメの生息環境の保全と沼の景観や周辺環境改善も同時に図る方法を探りました。直ちに、沼の管理者である宮崎県や地元と調整を図り、バック堤方式（水門を築造せず、沼の周りに堤防を築造する方法）に変更しました。この仕事を引き継いでいただいた後任の方々には大変ご苦労をおかけしたと思いますが、干潟の保全、アカメの生息環境の保全、適切に管理された船舶の停泊地の整備、水辺の散策路の整備など、見事なウォーターフロントが出来上がっています。地元の方々にも喜んでいただいているのではないのでしょうか。

このときに、未来志向で、将来に禍根を残さないよう常に良いものを目指していくこと、調整が難しくても勇気をもって見直すことの重要性を学びました。

河川協力団体制度が、来年10年目を迎えます。これまでの活動や、次の10年に向けて、アドバイスをお願いします。

まず、九州の河川協力団体（以

下、団体という）の連携は全国一の誇らしい取り組みである」と、認識しています。国土交通省（以下、国交省という）の本省をはじめ全国から、九州の仕組みは「本当に素晴らしいですね」、「ぜひこの仕組みを継続させ、より発展させてください」という声をいただきます。このように全国的に高い評価を得ています。私もそう思っています。

一方で、ベテランの皆様が長年にわたって活動を引っ張っていただいていることはとてもありがたい感謝に堪えませんし、深く敬意を表する次第ではありますが、今後は、各団体内の次世代の方々が中心になっていく仕組みや新たな団体の参画が、継続性や発展という意味では、極めて重要ではないかと考えています。

九州において、川の官民連携が本格的に始まった20年前、整備局は、川に関心を持っていたと、川を使っていたと、川を積極的に探しました。そして交流を深めました。

だと良いと思います。整備局は、「皆さんが行っている活動は流域治水の取り組みですよ」と後押しすると良いと思います。皆さんが実施されている活動を「それぞれの流域治水」として整理し意味づけするなど可視化し広報するのも有効ではないでしょうか。

話は変わりますが、整備局が取り組んでいる河川のハード整備というのは流域治水である一方で、グリーンインフラ、ネイチャーポジティブの取り組みだと考えています。例えば、治水対策として引堤を実施し、川を拡幅した場合、実は治水の効果のみならず、生物の生息空間も拡大します。まさにネイチャーポジティブです。流域治水に加えて、グリーンインフラやネイチャーポジティブ、カーボンニュートラルという世の中の流れも意識しながら取り組んでいくと良いですね。農業関係者、山の関係者、漁業関係者、様々な方々と積極的に交流を深め、流域ごとに団体間の繋がりを構築していくと良

すでに川で活動されていた団体は勿論ありましたが、まちづくりをやっている団体や山の活動を行っている団体など様々な団体とコミュニケーションをとりました。20年経過した今、もう一度、仲間を広げていく時期になったのではないかと思います。整備局も最近若い職員が急に増えています。職員の育成という観点でも各団体内の次世代の方や新たな団体との交流を深める時だと思っています。

皆様から新たなアイデアとして提案していただいている、「準会員制」は良い仕組みになると思います。川の楽しさ、喜び、そしてやりがいなどを一緒に共有しながらやっていくと良いでしょう。若い世代の方が表舞台に出ていただくことや、新しい団体の方に一緒に仲間に入っていただく仕組みをつくっていくことはとても大事だと思います。

注意すべき点としては、九州全体の繋がりを構築していくことは大事ではあります

いでしょ。

20年前のときと同じように、流域内の連携体制をもう一度、紡ぎ直していく。当時は、河川協力団体制度はありませんし、流域治水の取り組みもありませんでしたので、本来の仕事として河川事務所が取り組むのは容易ではありませんでした。しかし現在は、本来の仕事として河川事務所が取り組むのは容易ではありませんでした。しかし現在は、本来の仕事として河川事務所も取り組めると考えています。制度が整ってきたのでやりやすいと思います。河川事務所には、「流域治水課」も創設されています。今こそ、国の管理区間の外に出て、流域内の様々な方々と交流し繋がりを構築していく時だと思っています。

最後にお聞きしたかったことの答えを、もういただいたような感じですけど、次の10年に向けて、整備局の職員や団体の皆さまに期待することを聞かせてください。

昨年度から始まった「みらい会議」で、整備局の20代職員と住民団体の若い方との

が、基本は皆さん方の足元の活動です。まずは個々の活動を尊重し大事にしていきたいと思っています。その上で、普段からお付き合いたいという河川事務所と連携して、流域の中の繋がりを構築してもらいたいと思います。より身近な関係の繋がりを大事にしていくことが何より大事ではないでしょうか。「地元×流域×九州」というイメージです。

加えて、国交省だけではなく自治体との関係をきちんと構築しておくことが大事だと思います。首長さんは、皆さんの活動に感謝されています。住民が頑張っているということで、困ったときには応援していただけると思います。市町村など自治体と連携している団体は強いのですし、活動が安定し長続きしています。「団体・自治体・河川管理者」の三者の連携が極めて重要です。

これまで引っ張ってきただいた各団体のベテランの皆さんの役割も重要です。引き続き、個々の活動を見守っていただき、応援していただき、経験や

思いを継承してほしいと思います。

それぞれの流域治水

「流域治水」ということで、現在、協力団体の皆さまが中心となってシンポジウムなど、さまざまな普及活動を行っていたいています。流域治水の推進に向けて、大切だと思われることを教えてください。

国交省は、「流域治水」の旗振りをしています。世の中は、流域治水だけではなく、グリーンインフラやネイチャーポジティブ、カーボンニュートラル、GX（グリーントランスフォーメーション）など、もつと大きな流れがあります。国交省も流域治水から流域総合水管理へと視点が広がっています。治水に加えて、水の利用や環境も流域レベルで取り組んでいくことになるのではないのでしょうか。

こうした情勢を踏まえると、団体の皆さんが、今やっている得意な分野をしっかりとやっていただくことが何より大事だと思います。

勿論ですが、散策、ジョギング、サイクリング、ピクニック、オーブンカフェなどに加えて、例えばキャンプです。水辺でキャンプができる場所がもつと増えてほしいと思います。街中のキャンプは中々良いと思います。宿泊しなくても楽しめますので、せめて、デイキャンプが街中の川でできると良いですね。水辺の夕暮れ時や早朝の景色は見事なものです。朝の澄んだ空気も最高です。朝靄の中のコーヒーは格別です。キャンプは冬がハイスピーズですので洪水の心配はありませんし、冬の河川利用は少ないので一石二鳥です。と

にかく、街中で川を楽しむ人が増えれば、「何かやっているな」ということで、それが広報効果になり、より利用が増えると思います。ただし、綺麗なトイレがあることは、極めて大事ですね。

皆さんと一緒に自治体と連携して、街中の目立つところで、水辺利用をどんどん解放する社会実験を進めていきたいですね。こうした水辺利用の取り組みは、川の新たな団体の参画にも繋がるのではないのでしょうか。

流域治水という旗を掲げつつも、本来自分たちが得意としている活動を大事にして、流域治水との関係を意識しながらモチベーションを持ってやっていた



福岡県直方市街部（遠賀川）



福岡県久留米市街部（筑後川）



山国川水系／中津地区



山国川水系／吉富地区



緑川水系／川尻地区



緑川水系／熊本地区



白川水系／立野地区



白川水系／熊本地区



菊池川水系／菊池地区



菊池川水系／山鹿地区



菊池川水系／菊池地区



菊池川水系／高瀬地区



菊池川水系／和水地区



球磨川水系／球磨地区



球磨川水系／八代地区



球磨川水系／八代地区



球磨川水系／八代地区



大分川水系／野津原地区



番匠川水系／佐伯地区



五ヶ瀬川水系／延岡地区



大淀川水系／宮崎地区



大淀川水系／都城地区



小丸川水系／高鍋地区



肝属川水系／肝付地区



川内川水系／伊佐地区



川内川水系／薩摩川内地区



川内川水系／薩摩川内地区



川内川水系／薩摩川内地区



川内川水系／えびの地区



遠賀川水系・ナイトリバー

水辺で 特 乾 杯 集 2024

2024年度も九州各地で「水辺で乾杯・月見で乾杯・ムーンリバー」が開催されました。

あらためて「水辺で乾杯」を説明すると、毎年7月7日、川の日（七夕の天の川にちなんでいる）にあわせて、7時7分に全国で一斉に乾杯しましょう！という緩い企画です。「河川の自由使用」の範囲で、わっとみんなで集まって乾杯し、水辺を楽しむ機会をたくさんの人で作れるという気楽さを前面に出し、その気楽さの結果、官民の垣根を超え、水辺の未来を共有する良い機会になるのでは？というものです。

写真提供などご協力頂いた皆さん、ありがとうございました！



遠賀川水系／直方地区



遠賀川水系／田川地区



遠賀川水系／八幡西地区



遠賀川水系／嘉穂地区



筑後川水系／日田地区



筑後川水系／久留米地区



筑後川水系／小国地区



筑後川水系／日田地区



筑後川水系／久留米地区



矢部川水系／柳川地区



那珂川水系／西中洲地区



松浦川水系／伊万里地区

-川の先駆者- 大淀川流域ネットワーク 20周年特集



20年の歩み～大淀川の環境保護活動が築いた未来～



宮崎を代表する一級河川「大淀（おおよど）川」で、20年間にわたり地域とともに歩んできたNPO法人大淀川流域ネットワークの杉尾哲（すぎおさとる）代表、池辺美紀（いけべよしのり）さん、早瀬盟子（はやせめいこ）さんにその魅力をお聞きます。

すべての出会いを きっかけに

私が子どものころは、大淀川の中に河川プールがあり子どもたちであふれていました。時代と共にその光景は消え、河川の水質も悪化していました。私たちは、「水質悪化の原因の一つは、私たちの日常的な関心が川から離れてしまったことだ」と考えていました。

水質改善の取り組みとして始まった「大淀川サミット」の第10回大会（2002年）で、基調講演を頂いた尾田栄章氏（元建設省河川局長）から「水質改善には住民の活動が必要ですよ」という提案がありました。私たちは、これを契機に、延長107キロの大淀川流域の環境保全活動に取り組んでいる住民や団体の方々に声をかけ、平成16年4月21日に140名の会員で「NPO法人大淀川流域ネットワーク」を発

足。川への関心を高めるために、川で遊び楽しみながら、川の素晴らしさと大切さを地域社会に伝えることを目的に活動を本格化しました。

水質改善の力には 「流域連携」

ただ、活動が始まった当初は大きな壁にぶつかっていました。水道水源として大淀川を利用する地域は16市町村のうち下流域の宮崎市のみと限られているため、水質改善の話をしてもなかなか理解してくれず、上流域との連携に苦労しました。

しかし、都城地区の人たちに呼びかけ「都城大淀川サミット」という組織を作ってもらったことで、何とか理解と協力を得ることができました。その時は本当に嬉しかったし、今でも感謝しています。

活動と仲間たちの魅力

活動は導かれるように増えてきました。環境を保全するボランティアなどを志す方を対象に、自然や川文化などについて学ぶ「大淀川環境大学」を開催すると、参加者から宮崎県独自の環境評価指標を考えてほしいとの提案があり、全国に先駆けて「五感を使った水辺

環境指標」を考案しました。現在も宮崎県下の市町村や関係団体と連携して実施しています。また、平成17年の台風第14号で埋没した「小川の再生活動」の際に偶然にも絶滅危惧種タコノアシを発見し、「絶滅危惧種タコノアシの保全活動」が始まりました。今では、毎年11月に赤いタコノアシが水辺に広がる景色が見られるようになりました。

大切な活動を続けて 次の未来へ

いつか、広い川で泳ぎ、遊ぶという夢を持っています。活動を続けてこられたことで、今では川遊びにライフジャケットを着用することが当たり前となり、安全への配慮が進んでいます。これから私たちは、川で安全に遊べる環境を整え、未来に美しい川を残すための活動を続けていきたいと思っています。

「川をきれいにすることを中心に始まった活動は多岐にわたり、数々の受賞歴に加え令和3年環境省地域環境保全功労者等環境大臣表彰を受賞！」

川の先駆者である杉尾さんら



の想いは次世代にも引き継がれている。
次世代を担う池辺美紀さんと早瀬盟子さんは、団体の魅力について、「これまで活動を続けてきたメンバー同士がリスペクトしていて、本当に仲が良かった。それが一番です」と教えてくれた。「私は、川の活動を始めてから随分と優しい表情になったと言われます」と笑う杉尾さんの言葉にも頷けた。





流域市町村のトップにも体験していただきたいと考え、武雄市長、大町町長、江北町長、白石町教育長に日本一干満差のある六角川を身近に感じていただくことができました。

インタビュー：下田代 満 校長

潮汐を体感できる六角川

カヌー体験は、令和元年と3年の六角川の被害を契機として、令和4年10月にスタートしました。現在、「流域治水」の取り組みが始まっていますが、浸水しない地区に住んでいる方々は、他人事として受け止められているような感じでした。そこで、この六角川の干満を利用したカヌー体験によって、人と人を繋ぎ、流域治水の取り組みが円滑に進むとともに、地域の歴史や子どもたちの環境教育の推進にも取り組んでいければと思っています。

流域じまん

六角川、川の学校

昔は、漁船をつかって、夏休みの子どもたちを対象に、六角川の体験をおこなっていました。が、一時期中断している間に、漁船が大型化（センサー等の安全対策のため）して、六角橋を通れなくなっていました。今後どういった活動を行えるか悩んでいた時に、さがセ恩斯オブワンダーの川田代表と出会い、協力を得てカヌー体験を行っています。

カヌー体験で地域を元気に

六角川は、ガタ土の影響で濁って見えますが、水質的にはきれいな河川であり、エッやウナギ、むつごろう等生態系も豊かな川です。六角川でのカヌー体験を通じて、上下流の人たちや流域の人たちを繋ぎ、流域治水を自分事として考えてもらうとともに、六角川ひいては有明海の環境にも目を向けてもらいたいと思って活動しています。

今後は、新たなカヌー体験コースを開発し、歴史や文化が多く、自然豊かな六角川を地域の観光の柱として、若い

左から川田さん、下田代さん、岡部さん



人の生業にもできれはと考えています。



■六角川カヌー体験
料金（割引制度あり）
大人 5,000 円 小学生以下 3,000 円

■お問い合わせ
六角川、川の学校
校長 下田代 満
TEL 090-3662-3351
e-mail mitsuru3@cableone.ne.jp

8月中旬早朝、干満に合わせて、武雄河川事務所（国土交通省）の職員の皆さんとカヌー体験を行いました。



さが たけお
佐賀県武雄市
／六角川

流域じまん

遠賀堀川と堀川再生の会・五平太

遠賀堀川は、遠賀川の水を北九州市八幡西区の楠橋取水口として、中間市、水巻町、八幡西区折尾を通って、洞海湾まで続く全長12.1kmの運河（人工河川）です。約400年前、福岡藩は洪水が続く遠賀川の堤防の大改修工事と併せて、遠賀川の水を洞海湾にも流すという壮大な計画を立てました。100年を超える中断期間を経て、1762年に遠賀川の水が洞海湾に通じ、併せて、中間に水門「中間唐戸」を完成。その後、中間唐戸は大根川（黒川）や真名子（笹尾川）が合流し、堀川は上流の楠橋（北九州市）まで延長されました。江戸時代後期から、筑豊の石炭運送などで活躍した堀川ですが、昭和後半になると、水害対策の改修などで流れが分断され、生活排水や雨水が流れるだけの排水路のような存在となっていました。

その遠賀堀川に昔のような魚や貝の住める美しい流れの「宝川」をとりもどすため、日々、ごみ拾いなどの活動をされている「堀川再生の会・五平太」の皆

さんがいます。活動開始は、2002年3月。20年以上途切れることなく、毎週金曜日に草取りやごみ拾いを行い、EM（有用微生物群）発酵液を製造し川へ流しています。会員でお金を工面し行った最初の水質検査では、BOD（生物が水中にある有機物を分解するのに必要とする酸素の量）が8.0mg/lであつたのが、2012年の検査では1.2mg/l（3mg以下でアユが棲める）となり、フナ（1,000匹）などたくさん魚が戻ったので、活動の一環として、まずは住民の方々に遠賀堀川の存在を知ってもらうため、「子ども魚釣り大会」を5年間実施。聞き書き集『昭和の遠賀堀川』『遠賀堀川とをりを』を作成し、2市1町の各小学校と各図書館へ配布。さまざまな周知活動にも力を注いでこられました。20年にも及ぶ活動で、当時の子どもたちの中から近隣市町の職員となった方もいるなど、うれしい知らせもある一方、当時26名で始めた会員は高齢化に伴い、毎週の活動参加者は8名ほど（在籍18名）となっています。



↑ 会長の中村 恭子さん



← 子どもたちで作成した「EMだんご」



会長の中村恭子さんは、ご自身が活動できなくなると「会の存続は難しいかもしれない」と仰っていました。それでも、会員の皆さんと川の水が途切れることなく流れる、子どもたちが遊べる遠賀堀川を夢見て、日々地道な活動を続けられています。

■遠賀堀川
2007年 近代化産業遺産（経済産業省）
2019年 歴史の道100選（文化庁）
2024年 県指定史跡（堀川 吉田・大膳間切貫）

■周知活動内容
①子どもたちとEMだんごを作成・投入
②幸福（しあわせ）の黄色ハンカチを掲げる
③堀川ツアー
④堀川の歴史・活動の講演
⑤第1回アジア太平洋水サミット（別府市）に於いて、堀川の歴史劇「ナッショラン節」（2時間半）公演

福岡県北九州市
／遠賀堀川



くまもと ひとよし
熊本県人吉市
／球磨川

流域じまん

球磨川・人吉地区 かわまちづくり実行委員会

球磨川・人吉地区かわまちづくり計画(令和6年4月)



胸川天然河川プール
(かわまちづくり社会実験)



水害からの復興をとげ
グランドオープン(令和6年8月)



令和2年7月水害被災状況

それからは、夢を実現するために、全国各地の先進的な観光地に自ら出向き、良いアイデアを貪欲に吸収し、住民アンケートも実施するなど、地域の一人一人を主役に夢を語り合いました。

この町の夢と希望を
創造したい

目標は10ヶ月としていた温泉の復興は、最短で1年2ヶ月後でした。災害を乗り越え、人吉の復興を考えていた時に「創造的復興をしまさや」という熊本県知事の一言で、有村さんは「球磨川とともに生きるきっかけづくりとして、人々と一緒に、かわまちづくりに取り組みたい」と思ったそうです。

球磨川・人吉かわまちづくり実行委員会の会長・有村充広さんは、令和2年7月の球磨川大水害を経験。ご自身が社長を務める人吉温泉「清流山水花あゆの里」で、あつという間に1階天井あたりまで押し寄せた濁流から、宿泊者などを全員避難させるまで、あらゆる対応に追われました。故郷の被害は大きく、夜は何もできない日々が続いたと言います。

球磨川・人吉かわまちづくり実行委員会の会長・有村充広さんは、令和2年7月の球磨川大水害を経験。ご自身が社長を務める人吉温泉「清流山水花あゆの里」で、あつという間に1階天井あたりまで押し寄せた濁流から、宿泊者などを全員避難させるまで、あらゆる対応に追われました。故郷の被害は大きく、夜は何もできない日々が続いたと言います。

球磨川と共に生きる



人吉 光の復興プロジェクト



創造的復興
焼酎ラウンジ



有村会長と「くまモン」

©2010熊本県くまモン
撮影2022/02の様子

「これから生まれてくる子どもたちが希望を持てる持続可能なまちづくりを育んでいきたい。まちづくりはひととともに。」と話す有村さんは、近い将来だけでなく、100年以上先の未来もイメージして今日も奮闘されています。

「以前よりも明るく、球磨川と歴史や温泉などを楽しめる町として、世界中に人吉のファンをつくる！」と経済復興についても考えを巡らせます。力を合わせた夢の目標は「相良700年の歴史、継承される舟運文化、悠久の清流球磨川が作る昼夜の魅力を伝えるかわまちづくり」として、社会実験や必要に応じた見直しなど行いながら人々と連携して進めているところです。

流域じまん

くろさき

かんりくち

黒崎干陸地を守る会



ながさき いさはや
長崎県諫早市
／本明川



10月下旬に満開のコスモス



5月中旬が見頃のクリムソンクローバー



4月に満開となる菜の花

干陸地をいこいの場に

平成9年4月14日に諫早湾の締め切りが行われ、干潟が陸地化したことで、大量の草木が生い茂り、蚊やカメムシ、ヤスデ等の害虫が異常発生しました。その対処策を検討したことがきっかけで活動を始め、平成18年4月に「黒崎干陸地を守る会」を発足しました。当初は、3地区協働でと考え、参加協力を呼び掛けたのですが、同意を得られず、黒崎地区の20名で活動を始めました。

現在、除草活動をした場所に、菜の花、コスモス、クリムソンクローバー等、四季折々の花々を植え、多くの花見客が訪れ、とても喜ばれています。

課題を地域のかで
のりこえる

作業を始めた当初はガタ土が固まった大きな土の塊で、植物を植えるのに適していませんでした。細くなるまで何度も何度も耕しました。また、水はけも悪く、根腐れして植物が育たないため、試行錯誤を繰り返して、排水溝の整備も行いました。土壌は、海水により塩分を多く含んでいるため、塩害に強い植物をいろいろ試して、現在の菜の花、コスモス、クリムソンクローバー、彼岸花にたどり着きました。黒崎地区のメ



↑シジミの放流を行う子どもたち



↑除草作業の様子



↑「黒崎干陸地を守る会」の
(左から)増山会長、前田さん、泉野さん

黒崎干陸地のある場所は、1987年から1992年まで「黒崎ガタ祭り」を開催し、多くの方々の交流の場、笑顔あふれる場でした。今後は、四季折々の花々やオーブンスペースを活用したイベント等を行い、地域の方々の交流拠点として以前の賑わいを取り戻したいと考えています。また、干陸地を流れる川に「シジミ」を放流して、もつと水のきれいな川にできるよう取り組んでいます。

ンバーには、植物、土木・建築などそれぞれの専門家がおり、結束力も強いので、ここまで活動できているのだと思います。



みやざき たかなべ
宮崎県高鍋町
／小丸川

おまるがわ

小丸川鉄道橋

NPO法人大淀川流域ネットワーク 北林氏 撮影



流域じまん



約35年前に桜ヶ丘高校（現楊志館高校）の先生がカヌー部を作り、桜ヶ丘、大分舞鶴、大分商業高校等の合同チームとしてスタート。現在は舞鶴、大分豊府、大分東明高校の36名（引退した者も含む）で活動中。

当初は艇もパドルも、満足な艇庫もないような状況で、周りの方々のご支援・ご協力と指導者・選手の頑張りもあり、艇庫が立ち、艇が揃い、徐々に結果を残してこられたそうです。その伝統は今も変わらず、現在の部員たちに引き継がれています。

活動場所は、主に大分川下流。弁天大橋から上流に向かって古国府床止めまで、約4km弱の往復を繰り返し練習されるそうです。大分川は、長い距離を直線で漕ぐことができて、流れのある中で漕ぐため技術の習得が難しいようですが、習得できればどこでも力を発揮できるようになるのが魅力のひとつ。河川敷が綺麗に整備されており、ジョギングや散歩をされる地域の方々からの応援も励みになっているとのこと。

とでした。

川の中で活動されるので、潮の満ち引きや河道の状態をとてよく把握されており、潮が引いた時に、浅い部分が多くなり艇が座礁しやすく、漕げる水域が極端に狭くなるので、可能であれば川底の砂をとってほしいとの要望もありました。

インタビュー：足立先生（大分県体連カヌー専門委員長）



↑親水護岸改良進水式の様子

新しく出来た親水護岸を使って川へー

【メッセージ】

今後の目標は、日本一奪還！そのために日々練習に励んでいます。また、目標達成に向けた人間力の育成にも力を入れており、これからも高校生が頑張ることと、地域の活力向上に貢献できるように頑張っていきます。

【成績】

- ・全国優勝多数、日本代表選出多数
- ・OGがアテネ五輪出場
- ・文部科学大臣杯日本カヌースプリントジュニア選手権大会・女子K-42冠
- ・U16日本代表選、U15日本代表選出



小丸川鉄道橋（宮崎県高鍋町）は、JR日豊本線整備の一環として大正10年に完成した九州第一の大鉄橋で、全長805mです。その姿は、小丸川が太平洋に注ぎ込む壮大な風景とあいまって鉄道ファンを魅了する写真スポットとして有名です。

鉄道橋を管理するJR九州宮崎支社の企画運輸課の東さんにお話を伺うと、「JR九州の列車（海幸山幸等）を貸切で利用されるお客さまからの要望で運行したり、JR九州ウオーキングと称し、地域の名所を巡る列車の旅を企画したりと、様々な取り組みを行ってきました。

令和5年3月には、小丸川橋梁を望むことができる『高鍋城址桜まつり』を満喫ウオーキングと題したJR九州ウオーキングを企画して、キャッチコピーを『鶴戸神社から見渡す小丸川橋梁は絶景です。列車と一緒に写真が撮れるかな？』として案内しました。これからは有名な観光地とあわせて、地域が大切になっている『知る人ぞ知る地域の魅力』を発信して、鉄道を知っていただくきっかけづくりと努力をしていきたい」と地域の観光資源を大切に企画されていることが伝わってきます。

小丸川鉄道橋は、小丸川の中に架か



インタビュー／JR九州宮崎支社
東主席、松山助役、元木助役

る35本の橋桁で結ばれています。その安全を支えるのは、鉄道橋やトンネルなど土木施設の管理を担当されている松山助役と元木助役が率いるチームメンバー10名。「高い所は得意ではない」と日に焼けた顔で笑うお二人に、点検内容を伺うと、鉄道が安全に運行することは当たり前のことであるが、維持管理には多大な努力が必要だと分かりました。私たちは定期的に橋脚の点検を行っています。安全の維持管理・保守は、危険な高所での作業にはなりませんが、日々、皆さまに安心して乗っていただけることを考えながら管理業務を行っています」と緊張感を持って地域の生活にかかせないインフラを支えてくださっていました。地域の観光資源を支え発信する方々によって、小丸川鉄道橋の魅力も未来へ繋がっていきます。

流域じまん

大分県立舞鶴高校カヌー部



おおいた おおいた
大分県大分市
／大分川

大野川の歴史と「戸次のごぼうまんじゅう」



「戸次のごぼうまんじゅう」

大分市戸次地区は、古くから大野川の氾濫原で肥沃な土地となっており、昔からごぼうなどを栽培してきた記録があります。また、1586年に大友宗麟・長曾我部連合軍と島津との「戸次川の合戦」の地でもあり、戸次を見下ろす鶴賀城は島津軍に取り囲まれ、悲惨な最後となりました。水と食料(5菜3根(ごぼう))を確保していたそうで、この当時からごぼうの栽培がされていたようです。

現在、当地区には「戸次ごんぼの会」があり、そこでごぼうまんじゅうを作り、土日販売や市内のスーパードで販売日指定で販売しています。戸次でのごんぼの会の販売は土日のみです。なお、駅前のデパートのB2では、毎日の販売が始まりました。



大野川の12k~17k右岸に広がる戸次地区は大野川の氾濫原で、昭和30年代まで洪水時には上戸次から氾濫していた記録があります

上の写真のように、ごぼう、人参、鶏肉なども入り、とてもおいしいまんじゅうで、一つ150円で大満足すると思います。

左の地図の上戸次で国道10号の白滝橋、戸次拡幅を通りながら、河川や道路の整備の歴史、そして今やイベントとなった戸次川の合戦、その記念碑、さらに鶴賀城の攻防や城跡を想像しながら、ごぼうまんじゅうを食してみませんか？

大野川に架かる国道10号の白滝橋、戸次拡幅を通りながら、河川や道路の整備の歴史、そして今やイベントとなった戸次川の合戦、その記念碑、さらに鶴賀城の攻防や城跡を想像しながら、ごぼうまんじゅうを食してみませんか？

流域じまん

小鹿酒造



かこしま かのや
鹿児島県鹿屋市
／肝属川

人の技とところ

長い年月をかけて磨かれた清らかな地下水と、
鹿児島の大が育んださつまいも、麹、もろみ。
自然の力を最大限に活かすため、それぞれの素材の声を聞きながら
杜氏は五感を研ぎ澄まして仕上げのときを迎えます。

会社創業から53年を迎えた小鹿酒造では、肝属(きもつき)川の支川である始良川流域で、長い年月をかけて磨かれた清らかな地下水を原料に、おいしい芋焼酎が造られています。

創業当初から地元愛と自然への感謝の心をもって社員全員で行う清掃活動やカヌーなどの河川愛護活動を続けられ、流域の「LOVEあいら川ボランテニア活動」には、代表取締役社長日高裕二さん自ら積極的に参加されており、住民の皆さんとの信頼関係を築いてこられました。

かつては、会社に隣接する始良川からの水害を受けていたのですが、要望活動のいかもあって、河川改修がなされたおかげで、現在のところ水害はなくなりました。

BCP(事業継続計画)の策定を担当した中原雄一郎さんは、「これも長く続けられてきた河川愛護活動で、行政と顔の見える関係が構築されてきたことではないかと、感謝しきれない」と語ります。

私たちの産業は、住民の皆さんの理解があつて成り立っています。

有明海の希少種「ヤベガワモチ」

これでも貝。有明海特産の貝。



小さな触角が2本生えていて、巨大なナメクジのようですが、よく見るとこちらの方がナメクジよりも可愛い(?)顔をしています。

私達が普段見慣れないこの生物は、最初の発見地である矢部川にちなんでヤベガワモチと名付けられました。実はこのヤベガワモチは有明海の特産種で、良好な河口干潟にしか生息することが出来ません。環境省のレッドリストでは、絶滅危惧I類というレッドリストの最上位にランクされています。

貝殻がありませんが、これでも貝の仲間です。貝殻が無い代わりに、背中の部分は泥そっくりの見た目になっています。泥の上にいる個体を見つけたことは容易いことではありません。

夜行性で昼間はカニの巣穴に潜んでいます。カニなどが多く棲んでいて、アシ原が広がっているような環境の良好な塩性湿地にのみ生息しています。泥を食べながら、そして糞を出しながら泥の上を進んで行きます。

このような生物が有明海に注ぐ河川にも生息していることを皆さんにも知って欲しいです。

るのは、始良川の恵みである鮎や鯉などの魚をとり、一緒に美味しい料理を堪能する時間です。

水は宝、これから一番大事なことは、この始良川の豊かな自然、清らかな水を維持していくこと、未来に継承することです。

この始良川の清らかな水と同じような心をもって、企業と住民の皆さんが楽しさを共有しながら持続的な活動が続けられています。



小鹿のこだわり、それは自然への感謝の心。
焼酎造りに欠かせない清らかな天然水はまさに天の恵。
さつまいもを豊かに育てる大地の力。

小鹿のふるさととは、緑豊かな山に囲まれた自然豊かな土地です。長い年月をかけて磨かれた清らかな地下水は、ミネラル分はもちろん、南国の気候まで感じています。この清らかな水こそが小鹿を造る魂であり、天の恵なのです。



流域治水について

流域治水推進室

(流域治水推進室 原田 佳奈 書)

1. 流域治水とは

これまでの治水対策というのは、大雨による洪水被害から皆様の生命や財産を守るために、河川管理者が実施する洪水時の河川水位を下げて洪水を安全に流すための対策を中心に行っていました。しかし、近年は気候変動の影響により雨の降り方も激甚化しており、全国各地で毎年のように自然災害が発生しています。今後は、気候変動の影響により水災害は更に頻発化・激甚化すると予測されています。

そこで、この気候変動への対応として、これまで行ってきた治水対策を更に加速するとともに、河川の対策だけでなく、皆様が生活する土地での雨水貯留、浸水リスクの高い地域での浸水対策や住まい方の工夫、水災害リスク情報の充実や避難体制の強化などを一体的に進めていくことが重要です。

そのため、流域※のあらゆる関係者



※流域 大地に降った雨が地表を流れたり地中に染み込みながら川に流れ込む範囲

(地域住民、企業、行政など)が協働して行う治水対策『流域治水』を推進していきます。

2. 九州における流域治水の取り組み

現在、九州各地で様々な流域治水の取組が進められているところです。今回は各地域で住民や企業が主体となつて取り組まれている事例をご紹介します。

① 防災まち歩き地域ワーキング

(菊池川流域：熊本県山鹿市)

熊本県山鹿市では、大雨シーズン前に災害時の避難に着目し、菊池川河川事務所と熊本県、山鹿市が合同で企画した『防災まち歩き地域ワーキング』が6月9日に開催されました。

地区住民の方々と指定避難所までのルート歩きながら、大雨時に想定される浸水深を計測して具体的な被害をイメージし、大雨時に溢れる可能性があり危険な側溝がないか、高齢者や子供がスムーズに歩けるか等の観点で気付いた事を語り合いました。(写真①、写真②)

まち歩きの後には、気づいた点を地図にまとめ、避難時に安全に避難する

↓写真④ 水路の浸水の様子



↑写真⑤ 土のう作成の様子

この取組により、大雨時における河川への流出抑制や防災意識の高揚に繋がるとともに、流域のあらゆる関係者で流域治水に取り組む機運が高まっています。(写真⑥)

この取組は、土木協同組合の主催で令和4年に1会場から始まり、現在は市内各地で展開されています。

福岡県久留米市では、企業や地域住民、学生ボランティア等と協働し、排水路の浸水・除草作業や浸水に備えた土のうの準備が実施されています。(写真④ 写真⑤)

② 企業・市民・行政の協働

「みんなで流域治水！」

(筑後川流域：福岡県久留米市)

	実施日	会場	参加数
令和4年度	5/17、5/22	1カ所	237名
令和5年度	5/9、5/14、5/21	市内7カ所	866名
令和6年度	5/8、5/19、5/24	市内14カ所	1,101名



↑写真⑥ 参加者で記念撮影！

③ 雨水タンクの設置

(大淀川流域：宮崎県)

個人でもできる取組として、家庭での雨水貯留があります。この取組により、大雨時における河川への流出抑制に繋がります。

大淀川流域ネットワークの松本事務局長は、自宅に雨水貯留タンクを設置しています。(写真⑦)



→写真⑦ 設置されたタンクの様子

実際に貯めることのできる量は100Lであり、植物の水やりや汚れもの洗い、洗車等に活用されています。(写真⑧・⑨)

雨水タンクを設置してみた感想として、『雨水タンクは経済的かつ便利であり、家族で雨水が貯まる楽しさを共有でき、さらには洪水を減らす役割を



↑写真⑧ 貯まった水を活用！①



←写真⑨ 貯まった水を活用！②

市販の雨水タンクを購入し、雨樋からタンクへ水を貯留するための接続部の取り付け作業は自ら行われたそうです。

上で役立つマップとして整理しました。(写真③)

今回の取組をきっかけに、避難ルートの事前確認や早期始めの避難の重要性を意識していただけたようです。

今後も菊池川流域では、他の地区でも防災まち歩きを開催し、地域の防災意識・防災力の向上に繋がっていくことです。



写真①→大雨時に想定される浸水深



写真②→

水路の開口部を発見！大雨時には避難する子供が吸い込まれる危険性が...



↑写真③ 完成したマップ

担っており嬉しい』とのことでした。

この取組は今年6月に宮崎市にて地域住民が主体となり開催されたシンポジウムで紹介されており、流域内で広がりが期待できそうです。

また同流域内の都市市では、雨水タンクの設置に対して補助を行っております。

3. 最後に

今回、流域治水の取組を紹介するにあたり、資料提供にご協力いただいた方々へ心より御礼申し上げます。

読者の皆様に「流域治水ってこういうことだったんだ!」「これならやれそう!」と思っていただけたらと思い、取組を紹介しました。ぜひ流域治水に取り組むきっかけになると幸いです。



地域の皆様が安心して暮らすために必要となる対策をとる考え、情報提供を行っていくますので、今後ともよろしくお願いたします!

一 活 動 団 体 紹 介

1

NPO法人 白川流域リバーネットワーク



代表の金子好雄さん(右)

←代表の金子さんによる川の安全利用講習

任意団体等を経て、2007年にNPO法人として、現在の白川流域リバーネットワークを設立。任意団体の頃に始めた「しらかわの日」(流域一斉清掃)は、2024年で21回を迎えました。



2006年国・県・市の主催で、「白川水防災フェア」(現 水防災体験)が始まり、毎回、さまざまな協力をしていきます。当初は、大雨時の道路などでの水流を想定した疑似的な流速を作って歩くなどの避難体験を行っていました。現在は、川などに入る際や洪水避難時の正しい安全装備(ライフジャケット、穴あきヘルメット)の着け方、水の事故から身を守るすべを伝えた後、Eボートによる避難体験を行っています。熊本大学の学生の皆さんにも手伝ってもらっていますが、事前に必ず学生向けの川の安全利用講習・実習を行っています。

沈まない船と洪水で溢れない堤防はない

安全利用学習や防災学習・環境学習などの出前講座のほか、一般の買物客の方や国内外の旅行者向けに水災害に対する自助意識の向上を目的として、熊本中心街の下通りアーケードで「まちなか防災」を開催しています。昭和28年白川大水害の6月26日直前の土日に、人通りの多いアーケード内をお借りして、白川で起きた過去の水害の写真、白川の特性と防災・減災に向けたパネル展示、洪水ハザードマップを使用した居住地・市街地の洪水リスク認識を高める活動(マイタイムライン作成等)等の水防災啓発活動を実施。地元自治会やアーケード関係者など地域の方や行政の皆さんなどの協力もいただき2024年で6回目となりました。コロナ禍でも中止せず、工夫して開催してきました。「いつでもだれでも災害にあう可能性がある」と言い続けることが大事だと考えています。



まちなか防災とEボートによる避難体験



2

NPO法人 バイオオマスワーク あったらし会



30年前頃から地域の宝である曾木の滝に浮かぶ大量のゴミに問題意識を持ち、様々な活動を実施しています。伊佐市の地域産業は林業であり、地域にある豊富な資源で儲かる仕組みを構築したいと、木くずをバイオマスとして活用し、山の保有者が自律的に活動できるようNPOバイオオマスあったらし会を立ち上げました。「あったらし」とは鹿児島の方言で、「もったいない」

という意味です。「よそもん、ばかもん、わかもん」が地域を活性化させ振興させる。今大事なことは、自分自身が「ばかもん」となり、夢のある発想で次世代につなぐことです。



私たちの活動は、「遊び」だから「楽しく」をモットーとしていますが、若者にもそれを感じてもらう工夫をしています。

現在、鶴田ダム(大鶴湖)の水質保全施設である宮人川ピオトープで、毎月1回の草刈りや、子供たちの環境学習イベントを実施し、11月24日(日)に開催される鶴田ダムの大イベント「秋の大鶴湖祭り」では、河川空間のオープン化にチャレンジし有料の遊覧船を浮かべ、楽しみながら観光客をもてなす取り組みを行っています。



宮人川ピオトープでの環境学習



美しい神秘的な大鶴湖の朝日



→宮人川での環境学習
←「鶴田ダム 秋の大鶴湖まつり」チラシ



チラシPDF



ポータルサイト

九州各地で「川と街をつなげる」「川と人をつなげる」取り組みが始まっています！

(株)新井組 九州支店

〒812-0011
福岡市博多区博多駅前3丁目19番5号

応用地質(株) 九州事務所

〒812-0018
福岡市博多区住吉3丁目1番80号

(株)オリエンタルコンサルタンツ 九州支社

〒812-0011
福岡市博多区博多駅前3-2-8

(株)九州開発エンジニアリング

〒862-0912
熊本市東区錦ヶ丘33番17号

(株)九州建設マネジメントセンター

〒812-0013
福岡市博多区博多駅東2-10-35

共和コンクリート工業(株)九州営業部

〒812-0025
福岡市博多区店屋町8-24

(株)建設技術コンサルタンツ

〒890-0007
鹿児島市伊敷台一丁目22番1号

砂防エンジニアリング(株)

〒350-0033
埼玉県川越市富士見町31-9

清水建設(株) 九州支店

〒810-0004
福岡市中央区渡辺通3丁目6番11号

(株)高崎総合コンサルタント

〒839-0809
久留米市東合川3丁目7番5号

飛鳥建設(株) 九州支店

〒810-0004
福岡市中央区渡辺通5丁目14番12号

西日本技術開発(株)

〒810-0004
福岡市中央区渡辺通1丁目1番1号

日本工営(株) 福岡支店

〒812-0007
福岡市博多区東比恵1-2-12

パシフィックコンサルタンツ(株) 九州支社

〒812-0012
福岡市博多区博多駅中央街7番21号

松本技術コンサルタント(株)

〒871-0161
中津市大字上池永1285-10

八千代エンジニアリング(株) 九州支店

〒810-0073
福岡市中央区舞鶴3-9-39

(株)ARIAKE

〒860-4108
熊本市南区幸田2丁目7-1

(株)大本組 九州支店

〒810-0041
福岡市中央区大名2-4-30

(株)川原建設

〒871-0434
中津市耶馬溪町大字樋山路38

(株)九州建設計画エンジニアリング

〒812-0011
福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号

九州電力(株)

〒810-8720
福岡市中央区渡辺通2丁目1-82

(株)建設環境研究所 九州支社

〒812-0023
福岡市博多区奈良屋町2番1号

国際航業(株) 九州支社

〒812-0013
福岡市博多区博多駅東3丁目6番3号

三州技術コンサルタント(株)

〒890-0042
鹿児島市業師1丁目6番7号

第一復建(株)

〒812-0006
福岡市博多区上牟田1丁目17番9号

中央開発(株) 九州支社

〒814-0103
福岡市城南区鳥飼6-3-27

(株)西技計測コンサルタント 九州営業所

〒826-0041
田川市弓削田見立3175

(株)日水コン 九州支所

〒812-0038
福岡市博多区祇園町7-20

日本振興(株) 九州支店

〒812-0013
福岡市博多区博多駅東2-5-21

(株)不動テトラ 九州支店

〒812-0011
福岡市博多区博多駅前4丁目1番1号

三井共同建設コンサルタント(株) 九州支社

〒812-0013
福岡市博多区博多駅東2-14-1

いであ(株) 九州支店

〒812-0055
福岡市東区東浜1-5-12

(株)奥村組 九州支店

〒805-8531
北九州市八幡東区山王2-19-1

技研興業(株) 九州営業所

〒812-0007
福岡市博多区東比恵2丁目20-25

九州建設コンサルタント(株)

〒870-0946
大分市大字曲936番地1

(株)共同技術コンサルタント

〒880-0036
宮崎市花ヶ島大原2361-1

(株)建設技術研究所 九州支社

〒810-0041
福岡市中央区大名2-4-12

五洋建設(株) 九州支店

〒812-8614
福岡市博多区博多駅東2丁目7-27

ジェイエイシーエンジニアリング(株)九州支店

〒812-0014
福岡市博多区比恵町1-1

(株)大進

〒890-0016
鹿児島市新照院町21番7号

(株)東京建設コンサルタント 九州支社

〒812-0016
福岡市博多区博多駅南2丁目12番3号

(株)西日本科学技術研究所

〒780-0812
高知市若松町9番30号

日鉄鉱コンサルタント(株) 福岡支店

〒820-0053
飯塚市伊岐須1-356

(株)ニュージェック

〒531-0074
大阪市北区本庄東2丁目3番20号

松尾建設(株)

〒840-0842
佐賀市多布施一丁目4番27号

牟田建設(株)

〒842-0103
佐賀県神埼郡吉野ヶ里町大曲1756



川辺の風景マニアッククイズ！

川の景色はみんなの原風景。ですが、その一つ一つは似ているようで、一つとして同じ風景では有りません。写真の風景は、どこの川の風景でしょう？難しい時はヒントを御覧ください。

【ヒント】

- ① 「水郷」と呼ばれる場所ですが、水が清らかな事から「すいきょう」と濁らずに読みます。
- ② 鮎やながあります
- ③ 奥に「★」マークのビールを製造する工場があります。



編集後記

「九州かわとも」第8号編集後記

九州各地の情報を、出来るだけ分かりやすくお伝えしたいと意気込む編集チームは、情報収集の会議から盛り上がりおりました。河川に生息する希少種の愛らしさや、川の歴史に関係する食など、私たちも興味ある情報を皆さんにお届けしたいとワクワクしました。

また、流域の環境を活かしながら活動されている皆さんへの取材では、ページに収まりきらないほどの思いや夢を教えてください、その情熱と行動力に胸を打たれました。ご協力いただいた皆さまには心より感謝申し上げます。

今号では、各流域の人と食と歴史、そこで活動する人々の素敵な瞬間の写真、それを見守り連携しながらサポートしてくれる行政で働く方々の取り組みのほか、川に関するクイズも盛り込んでいますので、皆様で楽しくご覧いただければ幸いです。

「九州かわとも」編集チーム一同